

平成30年度

伏見区区民活動支援事業

活動事例集

～区民が主役のまちづくり～



伏見区役所・深草支所・醍醐支所

皆でつくる
すむまち 伏見

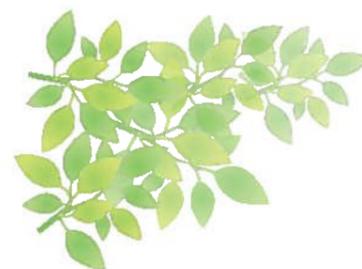


京都市
CITY OF KYOTO

京都市はSDGsを
支援しています。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

2030年に向けて
世界が共通した
持続可能な開発目標です。



～はじめに～

この伏見区区民活動支援事業活動事例集は、伏見区区民活動支援事業に採択された団体による「区民が主役のまちづくり活動」を、より多くの皆様に知っていただくとともに、団体の活動報告を兼ねて作成したものです。

「自分たちも伏見区内で何か活動ができないか」とお考えの皆様の参考になれば幸いです。

目次

1 伏見区区民活動支援事業の概要	P1
2 平成30年度採択団体一覧	P2～P4
3 巻頭インタビュー	P5～12
4 採択団体の取組紹介	P13～36



1 伏見区区民活動支援事業の概要

この事業は、「伏見区基本計画～皆でつくる すむまち伏見～」の推進に当たり、区民の皆さんが、自分たちの地域を暮らしやすい魅力あふれるまちにしていくために、区民主体で取り組むまちづくり活動の経費の一部を支援するものです。

採択事業は、「伏見区区民活動支援事業審査会」による審査を経て、伏見区長が決定します。

また、平成29年度から、小規模枠事業のうち、重点課題(子どもの貧困対策等、健康長寿、地域防災)の解決を主な目的とし、かつ学区レベルなど広い地域への効果が見込まれる事業を、「重点支援事業」と位置付け、優先的に採択しています。

① 補助金上限額

一般枠 上限60万円(必要事業経費の2分の1以内)

重点支援事業 上限15万円(必要事業経費の5分の4以内)

小規模枠 上限15万円(必要事業経費の5分の4以内)

② 申請・採択状況

	申請件数(金額)	採択件数(金額)
一般枠	16事業(7,388千円)	9事業(3,946千円)
重点支援事業	18事業(2,652千円)	18事業(2,652千円)
小規模枠	36事業(4,986千円)	24事業(3,219千円)
合計	70事業(15,026千円)	51事業(9,817千円)

参考:過去の採択状況

	申請件数(金額)	採択件数(金額)
24年度	26事業(7,483千円)	19事業(4,946千円)
25年度	39事業(10,504千円)	33事業(8,400千円)
26年度	40事業(10,309千円)	33事業(8,142千円)
27年度	53事業(14,052千円)	33事業(8,393千円)
28年度	54事業(14,178千円)	37事業(9,767千円)
29年度	61事業(12,332千円)	51事業(10,000千円)

2 平成30年度採択団体一覧

巻頭インタビュー掲載団体

団体名	事業名	掲載頁
淀観光協会(一般枠)	アカミミガメを駆除して淀城お堀のハス『淀姫』を復活させるプロジェクト	5.6
久我地区自治連合会(重点支援事業)	単身高齢男性対象の「男の料理教室」	7.8
藤森学区社会福祉協議会(重点支援事業)	ふれあい子どもひろば	9.10
小栗栖宮山自主防災会(重点支援事業)	「小栗栖宮山防災行動モデル」の策定	11.12

① 一般枠

団体名	事業名	掲載頁
向島南夏祭り実行委員会	第1回 向島南夏祭り	13
一般社団法人 日本食育者協会	伏見オリジナル食文化の発掘と開発及び発信事業	13
特定非営利活動法人伏見クラブ	地域子ども達とスポーツを通じて夢と希望を持って戦おう!	14
地域と人と～かけはしの会	ラジオ放送を使った高齢者への生活情報支援と居場所サロン	14
鳥羽伏見150	五感で感じる鳥羽伏見の戦い・明治維新150年プロジェクト	15
新「伏見～るかるた」製作委員会	「伏見～るかるた」リニューアルに伴う新句・情報募集と新「伏見～るかるた」発行事業	15
稲荷の家ほっこり	稲荷の家ほっこり 居場所づくり	16
日野学区自主防災会	「無事です。フラッグ」災害時の安否確認行動モデル	16

②重点支援事業

団体名	事業名	掲載頁
桃山東ロータス会	中学生の居場所づくり	17
向島ニュータウン学習会運営チーム	向島ニュータウン小学生・中学生学習会	17
京都市南浜児童館運営協力会	笑顔つなぐ みんなのいいばしょ(居場所)	18
田中宮市営住宅自治会	田中宮みゃんぶー子ども食堂	18
池田学区社会福祉協議会	池田子どもの居場所づくりプロジェクト	19
醍醐西子どもの居場所実行委員会	醍醐西子どもの居場所	19
ダイニングあんさんぶるわこう実行委員会	こども食堂(ダイニングあんさんぶるわこう)	20
久我・久我の杜・羽束師地域まちづくり協議会	久我・久我の杜・羽束師 健康福祉まつり	20
みんなで元気体操と話の会	みんなで元気体操 (筋力トレーニング, 介護予防トレーニング)	21
伏見ロコモ予防クラブ	地域力で行うロコモ予防	21
ふれあいオレンジカフェももやま実行委員会	地域と共に第2の人生を自分らしく生きる 「集い, 支え合い, 学びの縁側」	22
桃山南学区自主防災会	「避難所・緊急避難場所等」の表示板の 作成及び設置	22
淀南学区自主防災会	「淀南学区防災ハンドブック」の作成及び 全戸配布	23
藤城学区自主防災会	災害に強い 安全・安心なまちづくり	23
北醍醐校区自治会町内会連合会	北醍醐校区内道路の名称表示事業	24

③小規模枠

団体名	事業名	掲載頁
伏見楽舎	西日本最大の宇治川のヨシ原を 保全するための活動	25
ももネット	Tunagu spot事業	25
久我の杜発!認知症に やさしいまちづくり想作委員会	認知症にやさしいまちづくり事業	26

団体名	事業名	掲載頁
国際文化交流OOKINI	留学生と地域住民との文化交流事業	26
電気鉄道のルーツ 伏見チンチン電車の会	日本初の電気鉄道(路面電車)の啓蒙	27
にじいろプロジェクト	にじいろプロジェクト	27
向島賑いづくり事業者組織	向島ニュータウン及び向島地域の 商業地活性のマルシェ化事業	28
おじいちゃん・おばあちゃん・ あきんどよろず相談賜り所	空き家, 空き店舗, シャッター店舗等の予防の ための事前相談および類似事例調査事業	28
南部公園愛護協力会	地域に愛される公園づくりプロジェクト	29
御香宮神社武者組	伏見のワラジ造りプロジェクト	29
NPO法人向島駅前まちづくり協議会	向島駅前の環境整備と活性化 ー共生社会の再生ー	30
砂川学区人に優しく美しい街作り協議会	人の和で繋ぐコミュニティの街(学区)	30
砂川安心安全見守り隊	砂川小学校児童安心安全見守り事業	31
藤森神社ラジオ体操の会	藤森神社ラジオ体操の会	31
鴨川運河会議	ひろげよう!「高松橋ひろば」から地域の和	32
伏見区砂川学区自治連合会	我が事として分かちあう砂川のまちづくり ー誘い出しボランティアの養成試行事業	32
父活プロジェクト	大人と子どもの秘密基地 「FUKAKUSA BASE」をつくろう	33
深草竹コプターの会	深草の竹を活用した高齢者の居場所づくりと 多世代交流	33
大岩七瀬川サロン実行委員会	第2回大岩七瀬川サロン	34
特定非営利活動法人 深草・龍谷町家コミュニティ	町家 de “交龍”サロン	34
龍谷大学政策学部井上ゼミ	大岩街道周辺地域の環境保全活動 およびコミュニティ再生	35
醍醐十校区自治町内会連絡協議会	歴史が紡ぐ醍醐の地域コミュニティ	35
春日野自治町内会連合会	文化を基軸とした地域コミュニティ事業 (自町連交流将棋大会)	36
醍醐女性会	「終活」人生の終末期にむけての備え	36

3 巻頭インタビュー

アカミミガメを駆除して淀城お堀のハス「淀姫」を復活させるプロジェクト (淀観光協会)

連絡先 ☎ n-tada68@pref.kyoto.lg.jp (京都府保健環境研究所水質課:多田)

淀城跡公園のお堀にはかつて「淀姫」という淀城固有のハスが咲いていましたが、近年急速に減少しています。調査の結果、その原因がミシシippアカミミガメという環境省の「生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」で緊急に対策が必要な「緊急対策外来種」に指定されているカメだと判明。本プロジェクトはそのアカミミガメを駆除して、淀城のお堀にハス「淀姫」を復活させる取組です。

活動インタビュー

はじめは

京都府保健環境研究所で水質の調査をしている多田哲子さんは、淀城のお堀近くが通勤経路で「最近ハスの花を見ないなあ」と思ったそうです。実は多田さんは、カメの研究者でもあり、他地域でミシシippアカミミガメがハスの新芽を食べてしまう被害があったことを知っていたので「もしかして?」とお堀を上から覗いてみると・・・なんとカメだらけ。目視で数十匹確認できたそうです。

早速、地元の淀観光協会に、ハスがカメの食害で姿を消した可能性があることを伝えたところ、淀観光協会としてもやはりお堀のハスの減少は気になっていたとのことで一緒に調査することになりました。

平成29年5月の調査では目視でなんと100匹以上。多田さんによると、お堀全体で300から500匹生息しているだろうと推測されたそうです。



左:淀観光協会 藤田会長
右:京都府保健環境研究所 多田哲子さん

アメリカからやってきた人気者、実は・・・

このミシシippアカミミガメ、通称の「ミドリガメ」なら多くの方が耳にしたことがあるのでは。日本では昭和40年代くらいに輸入が急増し、お菓子のおまけやお祭りの露店で大人気になりました。ところが大きくなると最大28cm位になるので家では飼えずに捨てられることもあったようです。当時は、年間100万～200万匹も輸入されていたので、放される数も相当なものだったでしょう。それが繁殖を繰り返し、現在日本全国で800万匹と推定されています。※環境省調査



各地の池や沼でハスの新芽を食べられてしまう被害や従来の生態系を変えてしまう影響が現れており、環境省では、緊急対策外来種に指定して対策を取り始めています。

Interview

わなの設置

ミシシippアカミミガメはカメの中でも特に日光浴が好きな習性らしく、「日光浴わな」を使えば他のカメが入らずミシシippアカミミガメだけを捕まえることができ、他の地域でも実績があるそうです。しかし、罟は高額のため、手作りすることに。観光協会の会員さんには大工さんもいて、工作はお手のもの。3台を手作りしてお堀の中に設置しました。カメたちが罟に上ってくると、縁の一部がシーソー状になって下に傾き、そこを歩いているカメは網の中に落ちると仕組みです。

「日光浴わな」でミシシippアカミミガメを捕獲できるのは3月～11月の活動期。これまでに約300匹を捕獲し、駆除は順調に進んでいます。



固有種「淀姫」の復活計画

一方、今回のプロジェクトで復活させたいハスは、このお堀に固有の種類で「淀姫」という名前です。カメに食べつくされてしまい、お堀には残ってなかったのですが、宇治市植物公園で保存されていた「淀姫」をいただくことができ、現在はお堀の脇に設置したポットで育てています。カメの捕獲が順調に進み、現在は、低密度になっていることから、平成31年の春には、いよいよ「淀姫」をお堀に植える予定です。



困難に直面しながら

順調に見えるプロジェクトですが、いくつか課題もありました。淀観光協会会長の藤田さんによると「設置している罟に石を投げられ壊されることがあり、カメが逃げてしまった。」とのこと。日光浴をしない時期には罟を水から引き上げておくことにしました。また、炎天下のハスへの水やりもなかなか大変でした。

現在、地元の学校に呼びかけて子ども達と一緒にハスを植えられないか検討しています。「お堀は水が抜けないので、水深があり子どもが入れないのが問題。見学くらいになってしまうのでは。」と悩んでいます。

京都の南の玄関口、淀のシンボルに

「淀は桂川、宇治川、木津川の合流の地で水運の中継地、かつて淀城は水に囲まれていました。」と藤田さん。淀城跡公園にはその石垣の一部が復元されているそうですが、ゆくゆくはお城を復活させてほしいとのこと。「お堀の周りのお堀一面にハスの花がいっぱい咲く風景を」と意気込む藤田さん。淀のシンボルである淀城をはじめ地域の歴史を多くの人に知ってもらうには、「淀姫」の復活がきっかけになると期待しているそうです。ミシシippアカミミガメの駆除だけでなく、「淀姫」の復活にも取り組むことができ、夢に近づいたようです。

3 巻頭インタビュー

単身高齢男性対象の「男の料理教室」〈久我地区自治連合会〉

連絡先 ☎075-921-3278
✉shirou.k@kyoto.email.ne.jp(河村)

久我地域では、高齢者の一人暮らしや夫婦のみで暮らす世帯が増えており、特に独り身の高齢男性は家に引きこもる傾向があるため、健康でいきいきと活力ある豊かな高齢期を過ごすことを目的に、地域で自立した食生活を支援する「男の料理教室」を開いています。

活動インタビュー

活動のきっかけ

河村司郎さんは、久我自治連合会会長に就任した平成26年から「久我に住んでよかった」と住民が実感する地域を目指して日々、自治活動を行っています。

平成29年秋頃、河村さんは、地域住民から、奥さんと死別した高齢の方は家にひきこもりがちになってしまうことを聞きました。

また、久我地区社会福祉協議会主催による『健康すこやか学級』では『うたごえ』や健康体操などの教室が毎月7回行われていますが、男性の参加がほとんどないことが気になっていました。「高齢化社会の中、誰もが健康で過ごせる居場所づくりのためにはどうしたらいいのだろう?」と考え、ひらめいたのが『単身高齢男性のための料理教室』でした。

ピンチを乗り越えて

一人暮らしでは、ついインスタント食品や外食に頼って食事の栄養バランスを崩してしまいがちになるため、料理の基本を学び、久我菜を始めとする地元野菜を活かす料理教室の企画を立てました。

ところが、「さあ、教室を始めよう。」という矢先、会場として予定していた施設の調理室が設備不備のために利用できないことが分かりました。施設側との話し合いを重ねたものの、今年度の利用は見込めなくなり、「あきらめざるを得ない。」と一度は中止を決めました。しかし、仲間から「中止せずにできることからやりましょう。」と励まされ、小さな流ししかない久我自治連合会館にカセットコンロを持ち込み開催することにしました。

場所を決め、日程を決め、内容などについて話し合う中で「どのように一人暮らしの高齢男性に参加を呼びかけたらよいのだろう?」と戸惑いました。約1万人が暮らす久我地域において、どこに誰が住んでいるかを把握することは難しく、民生児童委員協議会の協力を得て、一人暮らしの高齢の男性宅に案内状を届けてもらいました。料理教室が外出するきっかけになるのか不安でしたが、10名から「参加します」との返事が届きました。

Interview

料理を作り、おいしさを分かち合う

参加者のモチベーションが高まるようにお揃いのエプロンを準備し、10月1日に「男の料理教室」の初回を迎えました。食育指導の専門知識を持った講師が「出汁の取り方」を説明し、参加者は数種類の出汁を飲み比べました。

11月は、電気・ガス・水道が遮断された災害時を想定した「非常食づくり」。耐熱性のポリ袋に入れた白米に水を加え、カセットコンロに置いた鍋の湯を沸騰させて浸ける「湯せん炊きごはん」など「パッキング」と呼ばれるレシピを数品作りしました。少ない道具で作る料理はいざという時に役立ち、簡単にできる点が良いと評判でした。

12月からは、久我にある市民農園「久我土ん子クラブ」との連携も始まり、市民農園を会場に収穫したばかりの久我菜やほうれん草などの野菜を使った料理を学び、2月と3月には、旬の久我菜を使った酒粕汁や久我菜の菜の花漬けなど伏見らしい料理を作り、地産地消の良さを感じる教室となりました。旬の野菜で料理を作り、「おいしいね」と会話がはずむ教室は参加者に好評で、継続した参加につながりました。



地産地消を目指して久我菜を収穫



出汁の飲み比べ



災害時を想定した非常食づくり

暮らしやすい久我地域を作りたい

「参加者が喜んでくれるのがとても嬉しい。」と河村会長はにっこり笑い、「参加者が地域に居場所を見つけて暮らしを楽しみ、そして、地域住民が『久我ではええことやってくれるな』と思う。そのような居場所が地域の活性化につながる。居場所づくり、仲間づくりは一石二鳥どころか一石三鳥なんです。」と語ります。

仲間づくりの場を作り、久我地域で楽しく健康で過ごせるよう、人生100年と言われる時代を見据えて地域活動を進めています。



久我地区自治連合会 河村会長

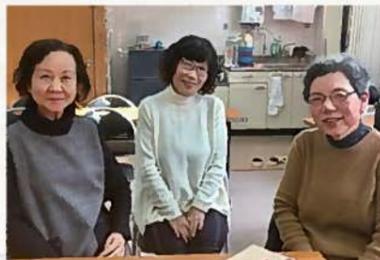
3 巻頭インタビュー

ふれあい子どもひろば 〈藤森学区社会福祉協議会〉

連絡先 ☎075-642-9111 (走井)

みんなが気軽に出入りできる「子ども食堂」を目指して

人と人のつながりが希薄化する地域において、子どもから大人まで、誰もが集える居場所づくりなど、幅広い活動をされている藤森学区社会福祉協議会の副会長・走井さんと同会副会長で「藤森学区民生児童委員協議会」会長も兼務する古谷さん、同会理事で事業に協力する「藤森地域女性会」会長の橋垣さんに、「藤森ふれあい子どもひろば」の取組についてお話を伺いました。



左から：古谷まり子さん・橋垣艶子さん・走井晶子さん

活動インタビュー

藤森学区社会福祉協議会のこれまでの取組について

藤森学区社会福祉協議会は、自治連合会や市政協力委員連絡協議会、民生児童委員協議会、地域女性会、自主防災会、PTA など地域の18団体が参画する協議会です。「住民福祉の向上を図り健康で明るいまちづくりを推進すること」を目的として平成2年に設立され、今年で27年目を迎えます。65歳以上の高齢者を対象とした『すこやか喫茶』（毎月10日と第1木曜日にサロン室と自治会館で開催）のほか、ふれあい事業として毎年6月に藤森神社で開催の『福祉祭りあじさいの集い』、7月に子どもたちを対象とした『福祉夏祭り』、12月には『福祉ふれあいまちつき大会』を行うなど、地域の各種団体と連携し、数多くの事業を実施しています。

取組の始まり～「子ども食堂を開きたい!」の思いをもとに～

昨今、社会的な問題として子どもの貧困問題や孤食化、地域とのつながりの希薄化が課題となっています。子ども食堂は、主に子どもたちに、食事の場など安心して過ごせる団らんの機会を提供するとともに、悩みを抱える子や家庭の早期発見や支援機関へのつなぎといった地域の窓口的な役割も担う場です。テレビや講演等で取組のことを見聞きしていた走井さんの中で「藤森地域でも子ども食堂をやりたい」という思いが膨らんだのが最初のきっかけ。古谷さんや橋垣さんにも呼びかけ、「とりあえず始めてみよう」と月1回第4土曜日に『藤森ふれあい子どもひろば』という名称で子ども食堂を開くことを決めました。参加対象は小学生以下の子どもとその保護者です。当初は必要なものがそろっていなかったため、まず伏見



ゲームの遊び方を研究するメンバー

Interview

区社会福祉協議会や深草支所に相談に行き、紹介された伏見区民活動支援事業に応募。審査の結果、助成が受けられることになりました。おかげで玩具等の購入や広報用チラシの作成、自治会館の会場使用料の支払ができるようになり、取組を始める基盤が整ったとのこと。

周知不足や地理的な場所がネックとなり参加者集めに苦戦

準備も整い取組を始めたものの、参加者集めに苦戦しているとのこと。広報活動が十分にできていないこともあり、会場として使用する自治会館の立地も大きな要因のようです。京阪沿線を挟んで東西に広い藤森学区のほぼ西端に位置する自治会館は小学校から離れており、子どもたちにとって参加しにくいのではとのこと。「せっかく遊び道具もそろえ、いつでもウェルカムな状態に準備しながら、立地の問題で人が集まらないことが残念」と話します。

そこで、周知方法の工夫や他の会場探し、雰囲気づくりで参加者を増やす努力をされているそうです。



藤森学区地域力アップ事業とも連携。子どもたちがたくさん参加してくれた「11月のハロウィン」

今後の展望～地域にある公共的な施設の力も借りて～

自治会館の手狭さも懸案事項のひとつだったため、近隣にある京都市伏見いきいき市民活動センターに相談に行き、センター内にある調理可能で広めの部屋を使わせてもらえることになりました。広報協力やセンターで活動する学生の協力が得られることも大きな魅力だそうです。平成31年1月にはやきそばパーティーを実施。15名の子どもたちに参加してもらうことができました!



1月26日のやきそばパーティーの様子



「やきそばパーティー」の広報チラシ

今後は、藤森学区の西端にあるという地理的問題を克服するために、学区のほぼ真ん中にあるデイサービス「藤森センターほっこり」等を借りて、誰もが参加しやすい形を模索していくそうです。「人と関わることやみんなが集まれる場所を開くのが好き」という3人にとって、「みんなが集い、楽しく過ごせる居場所」をつくることは時間をかけてでも果たしていきたい夢。近隣の福祉農園から食材提供の申し入れもいただけており、今後は地域（公共施設や中間支援組織、農家等）からの協力も得ながら、少しずつ「ふれあい子どもひろば」を発展させていきたいとのこと。

3 巻頭インタビュー

Interview

「小栗栖宮山防災行動モデル」の策定 〈小栗栖宮山自主防災会〉

連絡先 ☎080-5346-4020 (古田)

活動インタビュー

防災をもっと面白くしたい!

災害大国と呼ばれる我が国では、台風や地震などの災害への備えが大切です。

とりわけ、災害発生直後の初動期に、地域社会による共助があるかないかは、私達の生命に直結する大きな分かれ道になると言われています。しかし、私達はつい「自分だけは大丈夫。」と思って備えをおざなりにしがちなもの。小栗栖宮山自主防災会会長の岩井義男さんは「防災の視点からも日頃から顔の見える地域の関係づくりが何よりも大切。」と語ります。岩井会長とともに活動されている会長代行の古田敏雄さんも「やっぱりスポーツとかお祭りとかだとね、集まりますけど、防災ってなかなか人が集まらないですからね。」とのこと。それゆえ古田会長代行は、どうにか防災をテーマにした活動をもっと面白くできないかと、日頃からずっとネタを探していたのだそうです。



小栗栖宮山自主防災会 岩井会長

ある時、偶然読んだ新聞記事に目が止まりました。「避難所運営ゲーム、略してHUGというものがあるらしい。これだ!と思いました。」

HUGとは、避難所の運営をゲーム形式で楽しみながら模擬体験できることを目指して、静岡県が開発した一般住民向けシミュレーション訓練方法。古田会長代行は、多くの人に関心を持ってもらえる防災訓練を目指して、早速、学校や醍醐支所と相談し、実行しました。

実際に避難所を運営してみよう

折しも平成30年は地震や台風が相次ぎました。小栗栖宮山学区では西日本豪雨や台風の到来時に、実際に緊急避難場所を開設する機会が繰り返されました。「HUGで体験する避難所運営と、実際のそれとは全然違った。」と古田会長代行。

例えば、障がいを持つ方をどのようにケアするか、ペットを連れ込んでくる場合どう対応するか、学校の鍵を誰がどう管理するのかなど、実際に避難所運営を経験しないとわからないことに直面することが多かったそうです。「例えば避難所に使う置は、普段は使わない部屋に置いているでしょ。ところが、いざという時に運ぶのにすごく不便で。だから避難所の隣に置いていたほうがいいとか。こんなのやってみないとわからないですよ。」とのこと。



小栗栖宮山自主防災会 古田会長代行

「面白い防災」が新しい地域のよりどころに

HUGをはじめとする自主防災会の取組は地域でも好評を得ています。小栗栖宮山学区では高齢化などを背景に自治会町内会を脱会する人も多く、「5,6年前から町内の運動会が成り立たない状況が続いていた。」というほどでした。しかし、平成29年度の伏見区民活動支援事業で作成した「水害・土砂災害ハザードマップ」や、自主防災会の活動内容や必要性を理解してもらうための「自主防災会だより」などを活用し、自治会町内会に加入していない世帯にも説明会を開催することで、これまでなかなか関心を示さなかった方々から問い合わせを受ける機会も増加。

このように、防災に対する関心が高まっているこの機を捉えて、「防災」を切り口に自治会町内会のコミュニティ強化にも取り組まれているとのことをお話を伺い、HUGが町内会とともに地域のよりどころになっているように感じられました。



自主防災会の活動を紹介する小栗栖宮山の自主防災会だより



災害によって対策も変わるため防災行動判断フローを作成

子どもや若者たちと考える未来の防災と地域

今後の展望としては、地域の子どもや若者たちと一緒に取り組んでいきたいそうです。「こういう訓練って、やっぱりおじさんおばさんだけでやってたんではダメなんですよ。高校生なんかは僕らでは思えないようなアイデアを持っているし、体力もある。HUGは色んな人とできるので、今度は高校生のような子どもや若者たちとやっていきたいですね。」

防災を面白くしたいという情熱とアイデアから新しい地域のよりどころを作り出し、次世代との交流の機会へとつなげていくことを目指す古田会長代行。どの地域でも無関係でいられない「防災」という大きな問題に楽しい未来の形を実例として示してくれる小栗栖宮山自主防災会の取組にこれからも注目です。



小栗栖宮山学区の防災訓練の様子

4 採択団体の取組紹介 ①一般枠

第1回 向島南夏祭り 〈向島南夏祭り実行委員会〉

連絡先 ☎075-601-8534 (西澤)
✉ dkblc004@kyoto.zaqa.ne.jp

向島南学区は、少子高齢化等による地域力の低下が見られるため、地域の活性化、住民の絆を高め、活気ある街づくりを目指して、平成30年7月27日に向島南小学校の校庭や体育館で「第1回向島南夏祭り」を開催しました。

向島中学吹奏楽部演奏、大正琴演奏等の発表会や手芸品等の展示等に約1,500名以上の参加者があり、模擬店も盛況で喜ばれました。

開催を通じて、地域の団体や町内会の交流が密になったことや終了後の片付けまで多数の協力を得られた意義は大きいと考えています。

団体からのメッセージ

子ども向けの盆踊りでは、初めての経験にびっくりした子どもがいる一方、「久しぶりの盆踊りで楽しかった。」「来年も開催して欲しい。」等のご意見もいただきました。



地域子ども達とスポーツを通じて夢と希望を持って戦おう! 〈特定非営利活動法人伏見クラブ〉

連絡先 ☎075-323-1762
✉ tsuboi@npo-fushimiclub.jp

共働き家庭が増える中、多感な中学生の放課後の見守り活動として平日夜の時間を活用した地域ラグビークラブを設立し、体力の増進だけでなく、社会性・協調性を育てています。

チームで「京都一」、「日本一」という簡単には手に入れる事のできない目標に向かって日々挑戦し、戦う。さらには、高校への進学の一助となるよう活動に取り組んでいます。

団体からのメッセージ

創部2年目ですが、年間2つある京都の大会で優勝する事ができました!



伏見オリジナル食文化の発掘と開発及び発信事業 〈一般社団法人 日本食育者協会〉

連絡先 ☎075-644-6643
✉ info@shokuikusya.com

伏見区にある様々な食に関わる資源を活かし、新しい食のメニューや加工品を生み出しています。区民の誇りとなるオリジナルの食文化を創出し、伏見を訪れる方にも食の感動を提供しています。開発したメニューや加工品はレシピとともに発表。

伏見区の食文化のさらなる発展を目指して活動しています!



団体からのメッセージ

写真は、『酒粕生キャラメル』、『酒粕マドレーヌ』、『ニゴイせんべえ&パーティ』です。



ラジオ放送を使った高齢者への生活情報支援と居場所サロン 〈地域と人と〜かけはしの会〉

連絡先 ☎075-602-9443 (葛山)
✉ kakehashinokai@gmail.com

メールやインターネットの時代ですが高齢者は、なかなか使いこなせず孤立して引きこもりがちになる方もおられます。そこで昔ながらのラジオで優しく語りかけ、外出のきっかけとなるよう地域の多彩な催しや健康長寿の取組を紹介。5月から2月末まで全40回放送。(毎週金曜正午, FM845)

さらに、居場所づくりとして、3回の「かけはしサロン」を伏見区役所などで開催(7月, 10月, 2月)。交流と笑顔の輪が広がっています。

団体からのメッセージ

22人のボランティアメンバーが毎月取材をして台本作り、そして集まって収録します。「読まず」に「語りかける」ことで心に届けようと毎回試行錯誤しています。



4 採択団体の取組紹介 ①一般枠

五感で感じる鳥羽伏見の戦い・明治維新150年プロジェクト 〈鳥羽伏見150〉

連絡先 ☎090-6737-0980(井口)
✉kyotocityhistory@gmail.com

鳥羽伏見の戦い・明治改元から150年目に当たる区切りの年に、周年事業を実施することで、この戦いにおいて伏見区および周辺地域の住民がとった勇気ある行動を顕彰し、未来の伏見の繁栄を願って、地域の発展と住民の暮らしの向上に寄与するまちづくり事業に取り組みました。

主な事業

- ①伏見幼児園園児の鼓笛隊と御香宮武者組による明治維新行列
- ②鳥羽伏見の戦いオリジナル図屏風の展示
- ③古写真と古絵はがきの展示「明治・大正期の伏見の賑わい」
- ④講演会「鳥羽伏見の戦いとその後のもちの変遷をふりかえる」



団体からのメッセージ

50年に一度の周年事業、楽しく頑張りました。今後も継続的なまちづくりとして取り組みます。次回は、50年後の2068年!



「伏見～るかるた」リニューアルに伴う新句・情報募集と 新「伏見～るかるた」発行事業 〈新「伏見～るかるた」製作委員会〉

連絡先 ☎075-641-2581(大谷)
✉fushimi-ru-karuta@googlegroups.com

遊びを通じて伏見の誇りを子どもたちに伝える「伏見～るかるた」の新バージョンを製作しました。10年前に作られた45枚に15の新句を追加。その募集過程で、新たにたくさんの地域の宝が発見されました。「伏見～るかるた」で遊んだ子どもたちは、成長後も句を忘れていません。世代を超えて遊び継がれる「かるた効果」で、身近な歴史遺産・景色・風物を大事に伝え守ろうとする心が、着実に育っています。

2月には新しい札のお披露目と、第11回「伏見～るかるた大会」を開催しました。

団体からのメッセージ

旧「伏見～るかるた」は平成20年に伏見工業高校の生徒が製作、毎年かるた大会が行われています。今回の新句募集では403通もの応募がありました。



稲荷の家ほっこり 居場所づくり 〈稲荷の家ほっこり〉

連絡先 ☎075-641-2700(小滝)

医療的ケアが必要なお子さんとそのご家族の居場所づくりを行っています。ご家族同士の交流や各専門職の方々への相談を目的としてカフェ交流会を開催しました。

ギター演奏に合わせて歌ったり、劇遊びを楽しんだ後、歯科医師や看護師、言語聴覚士、作業療法士、管理栄養士など専門分野の方々のご協力のもと、気になる悩みなどを各自気軽にご相談されました。

その他、外出レクリエーションやプール遊びなども開催しました。

団体からのメッセージ

ご家族同士や専門分野の方々と一緒に雰囲気の中、つながることができて良かったです。



「無事です。フラッグ」 災害時の安否確認行動モデル 〈日野学区自主防災会〉

連絡先 075-573-1919(西)

地震などの発生時に住民の安否確認をスムーズにするため、無事を伝える旗を作成して日野学区内の自治会に加入する全世帯に配布。毎月5日の朝に災害がなくとも旗を掲げて安否確認訓練を実施しています。

安否確認訓練に取り組むことで自助・共助の意識を育み、日頃からの安否確認体制の確立を目指しています。

団体からのメッセージ

有事でも住民同士で協力して減災に努め、住んでいて良かったと思われるまちにしたいです。



4 採択団体の取組紹介 ②重点支援事業

中学生の居場所づくり〈桃山東ロータス会〉

連絡先 ☒ lotus.momoyama@gmail.com (澤田)

中学生や高校生が地元でほっこりできて、勉強などの相談にもものってもらえる居場所づくりを毎月二回(第一・第三水曜日18時から19時半)開催しています。

大学生が勉強方法をアドバイスしてくれたり、卓球の相手をしてくれたり、最後はコーヒータイム。お茶を飲みながら、色んな世代で交流することも新鮮なようです。

平成30年9月、平成31年2月には、桃山中学校でチラシを配布してもらい、活動を紹介していただきました。



団体からのメッセージ

思春期の子ども達は、大学生達と触れ合って視野が広がるようです。

向島ニュータウン小学生・中学生学習会〈向島ニュータウン学習会運営チーム〉

連絡先 ☎075-603-1287(事務局:伏見区社会福祉協議会)

向島ニュータウンでは、地域住民とボランティア、関係機関が協力して、子どもや若者と関わっていくための拠点づくりを進めてきました。

その拠点で、小学生や中学生を対象にした学習会(週4回)や体験活動(季節ごと)に取り組んでいます。

もっと体を動かしたい小学生から勉強に集中したい中学生まで、幅広い参加があり、バランスを取ることが難しいですが、子どものパワーに負けないように、一生懸命取り組んでいます。



団体からのメッセージ

少ない人数で取り組んでいるので、是非、ボランティアに来てほしいです!

笑顔つなぐ みんなのいいばしょ(居場所)〈京都市南浜児童館運営協力会〉

連絡先 ☎075-611-3176(伊川)
☒ minamihm@kyo-yancha.ne.jp

南浜学区内に新しいマンションが建設される中、多くの子育て世帯が転入されています。そこで、子育て世代や貧困家庭の孤立を減らすため、子どもの居場所づくりとして様々な事業を開催し、地域全体で子どもの成長を見守る活動をしています。

平成29年度に引き続き、夏はゲーム大会の開催、冬はクッキングを児童館で開催し、地域の皆さんにおうどんを振る舞いました。

また、隔月で学習支援を開催し、マンツーマンの支援に子どもたちは、真剣に勉強と向き合っています。



団体からのメッセージ

子どもの成長を見守る様々な活動に取り組んでいます。

田中宮みんぱー子ども食堂〈田中宮市営住宅自治会〉

連絡先 ☎075-644-5606(月・火・金 15:00-17:00)(岡田)
☒ tanakanomiya_kakurabu@hotmail.co.jp

子ども・学生・地域住民の交流や地域の子育て支援ネットワークづくりを目的に、学生ボランティアIVUSA深草クラブ及び竹田保健協議会と連携し、2回にわたって「田中宮みんぱー子ども食堂」をオープンしました。

当日は、学生が子ども達の夏休みの宿題をサポートしたり、みんなと一緒にご飯を食べたりすることにより、交流を深めました。また、子ども達が食事の配膳・後片付けに取り組むことにより、「食」について考えるきっかけとなりました。



団体からのメッセージ

子ども食堂は子ども達から「また開催してほしい。」という意見も多く、大変好評だったので、定期的開催することを検討しています。

4 採択団体の取組紹介 ②重点支援事業

池田子どもの居場所づくりプロジェクト〈池田学区社会福祉協議会〉

連絡先 ☎ matsu2006@vanilla.ocn.ne.jp(松浦)

学区内の子どもたちが、自己肯定感を高め、将来に夢と希望を持てるように子どもの居場所づくりに取り組んでいます。

地域の集会所での、こども食堂、夏休みのキッズウィーク、クリスマス会や、小学校の談話室を使い絵画教室を開催しました。

こども食堂では、食事を提供するだけでなく、野菜を切ったり、配食を担当するなど、子どもたちが主体になるような運営を心がけました。

また、学生ボランティアや地域の大人に参加していただき、タップダンス教室や陶芸教室も開催。12月のクリスマス会では、子どもたちでクリスマスケーキをつくるなど、楽しい場づくりに努めています。



団体からのメッセージ
子どもの居場所づくりを通じて、世代間交流が深まり、地域の絆が強まったと感じています。

醍醐西子どもの居場所〈醍醐西子どもの居場所実行委員会〉

連絡先 ☎ 075-572-2659(温井)

醍醐西学区の子どもたちと保護者を対象に、概ね毎月1回、土曜日や学校休業日のお昼前後、地域主体で子どもたちが大人や学生ボランティアと一緒に安心して過ごせる場を開設し、地域ぐるみで子どもと子育て家庭を見守っています。

毎回、午前11時からスタッフと一緒に勉強した後、お昼には地域の皆さんによる手作りの昼食を皆でおいしくいただきます。その後、午後1時半頃までスタッフも交えて皆で楽しく遊んでいます。



団体からのメッセージ
取組を通じて、できることから子どもたちを育てようという機運が地域で高まりました。

こども食堂(ダイニング あんさんぶる わこう)〈ダイニングあんさんぶるわこう実行委員会〉

連絡先 ☎ 075-575-2255(小林)

「ダイニングあんさんぶるわこう」を始めてから早2年、安心して過ごせる地域コミュニティづくりを目的に、子どもたちが地域の方や会場となっている南山城学園醍醐和光の若手職員と一緒に食事や遊びを通じて交流を深めてきました。

平成30年度は、学生ボランティアや南山城学園の入所利用者の皆様も交え、より一層、幅広い方々とともに時間を過ごしました。

今後、本事業を通じて、子どもたちに地域福祉の向上や障がいのある方への理解の促進を図っていきます。



団体からのメッセージ
12月はたこ焼き作りとビンゴ大会をしました。ビンゴで当たったクリスマスプレゼントにみんな大喜び♪

久我・久我の杜・羽束師 健康福祉まつり〈久我・久我の杜・羽束師地域まちづくり協議会〉

連絡先 ☎ 075-933-7521(道岡)

三地域の住民が連携し手作りで開催するまつりで、引きこもりがちな高齢者に外出の機会を提供したいとの思いを込めています。また、来場者に自治会等で取り組んでいる高齢者の居場所づくり事業をPRし参加者を増やす狙いもあります。平成29年度に引き続き2回目の開催。

まつりの当日は、介護・健康相談、認知症や介護に係る事業所紹介、ミニセミナー、脳トレ、血管年齢測定などのほか、地元住民による舞台ショーなど、さまざまなコーナーで賑わいました。



団体からのメッセージ
「高齢者が住み慣れた地域でいきいきと健やかに暮らし続けることが出来る」地域づくりを目指しています。

4 採択団体の取組紹介 ②重点支援事業

みんなで元気体操(筋力トレーニング,介護予防トレーニング)〈みんなで元気体操と話の会〉

連絡先 ☎075-631-6201 (福島)

年々、平均寿命は延びていますが、自分のことは自分でできる健康寿命との差は、約10年もあります。
そこで、毎月4回、横大路運動公園で2時間程度、健康寿命を延ばすことを目的とした、筋力トレーニングをはじめ、転倒を予防する体操、脳トレ体操による認知症予防、お口の元気体操など様々な活動を実施。
また、日常生活に関する事柄について参加者で話し合う会も開催しました。



団体からのメッセージ
参加者の方は体操と会話で盛り上がり、楽しい雰囲気です。
室内の健康器具も自由に使用できます。

地域と共に第2の人生を自分らしく生きる「集い、支え合い、学びの縁側」〈ふれあいオレンジカフェももやま実行委員会〉

連絡先 ☎075-611-3168 (清水)
✉Kazu_mizu117@nifty.com

引きこもりがちな高齢者や初期認知症の方を対象に、地域住民が主役の定例会やイベントを開催し、参加者の自立生活、健康づくり、心理ケアを支援しました。
近くの集会所でコミュニケーションを深め、仲間の輪を広げて健康長寿に貢献しています。
具体的な取組内容:①定例会を開催し、3ヶ月毎に地域住民にチラシ配布②特別イベントとして、高齢者医療介護の予防講座をはじめ音楽療法や健康体操、文化講座などの様々な企画を開催して男性の参加を増やしました。



団体からのメッセージ
潜在利用者を掘り起こすために、活動の達成感や効果を共有して、支え合いの気運を高めることが重要と考えています。

地域力で行うロコモ予防〈伏見ロコモ予防クラブ〉

連絡先 ☎075-631-7282 (矢野)

これから迎える超高齢化時代は、地域に住んでいる人々がいかに健康で元気なコミュニティを築き、維持していくかが課題です。
「ロコモ予防」を通じて「介護予防」、「健康寿命の延伸」につなげ、地域における「健康年齢と平均寿命」の合致を目指して活動しています。

10月28日(日)には、伏見区役所にて、『ロコモを予防していつまでも元気でいきいきと!』をテーマに“健康広場”を開催し、ロコモ度テストをはじめ様々な健康測定コーナーや医師・看護師・栄養士・相談員による健康相談コーナーを実施しました。
※ロコモ:ロコモティブシンドロームの略
運動機能の低下などにより、要介護になるリスクの高い状態



団体からのメッセージ
たくさんの方に来ていただき、自分の身体のことが良く分かってよかったという意見をいただき大変好評でした。

「避難所・緊急避難場所等」の表示板の作成及び設置〈桃山南学区自主防災会〉

連絡先 ☎075-611-8992 (山分)

地震や水害などの災害発生時に、地域住民等が迅速かつ正確に安全な場所に避難できるよう地域の幹線道路等に避難所・緊急避難場所・広域避難場所の施設の名称、その場所への方角や距離を示す表示板を作成しました。



団体からのメッセージ
地域住民の防災意識の向上及び安全対策が図れました。表示板の設置場所の調整には苦労しましたが、企業等のご協力をいただき、感謝しています。

4 採択団体の取組紹介 ②重点支援事業

「淀南学区防災ハンドブック」の作成及び全戸配布 (淀南学区自主防災会)

連絡先 ☎075-632-2288 (野地)

災害への備えや災害発生時にとるべき行動、情報収集・安否確認の方法やハザードマップなど命を守る大切な情報を「淀南学区防災ハンドブック」(保存版)として一冊にまとめ、学区内の全戸に配布するとともに、防災研修等に利用しました。

団体からのメッセージ
淀南学区防災ハンドブックを作成し、地域の防災意識を高め、各家庭で災害時に役立てます。



北醍醐校区内道路の名称表示事業 (北醍醐校区自治会町内会連合会)

連絡先 ☎090-3286-7903 (川本)

「通り名プレート」を設置する本事業は、地元住民はもとより他府県から来られた方々からも現在地や目的地を知るのに大変重宝すると喜ばれています。
また、防災・防犯両面においても重要な役割を果たしています。
今後、住民全体に周知していくため、プレート数を増やし、プレート設置箇所の校区地図を製作し、全戸配布をする計画です。

団体からのメッセージ
本事業によって自分の住む地域に愛着を持ってもらい、防災に不可欠な住民同士のつながりが深まればうれしいです。



災害に強い 安全・安心なまちづくり (藤城学区自主防災会)

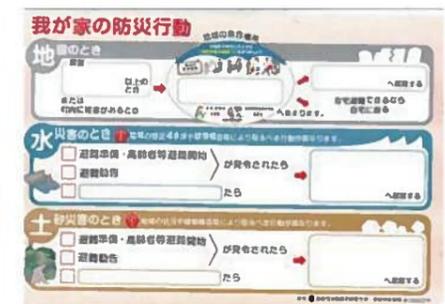
連絡先 ☎090-4641-0777
✉ adotaka@carrot.ocn.ne.jp (高橋)

大規模災害時の「我が家の防災行動」シールへの一人ひとりの記入と災害時・非常時における「救急医療情報キット」を作成することで、災害を「自分ごと」として捉えていただき、「災害に強い安全・安心なまちづくり」に貢献することができたと思います。

団体からのメッセージ
「救急医療情報キット」の希望者、対象者の選定にあたり、地域の色々な方に協力していただいたことで、新たなネットワークができて良かったです。



救急医療情報キット



我が家の防災行動シール



4 採択団体の取組紹介 ③小規模枠

西日本最大の宇治川のヨシ原を保全するための活動〈伏見楽舎〉

連絡先 ☎075-621-5689 (津田)
✉shojitsd@yahoo.co.jp

地元の宇治川沿いに昔から自生するヨシが、水質浄化や自然環境の保全に役立っていることや地域の環境保全の理解を深めるため、地域や小学校でヨシに関する勉強会や体験事業を実施しました。

8月にはツバメのねぐら観察会、また地元小学校では、ヨシの再利用としてヨシ灯り展用のオブジェづくりをしていただき、発表会を開催。多くの方にご覧いただきました。

また、3月には、ヨシ焼き見学会を開催し、冬の風物詩として地元の住民や児童に参画していただきました。

団体からのメッセージ
ツバメのねぐら観察会、ヨシでのオブジェづくりなど宇治川のヨシ原を利用した事業を実施して、環境保全の重要性を理解していただきました。



認知症にやさしいまちづくり事業〈久我の杜発!認知症にやさしいまちづくり想作委員会〉

連絡先 ☎075-931-8024 (砂川)

久我の杜地域に住む全ての住民が、「このまちに住んで良かった!いつまでもこのまちで暮らしていきたい!」と思えるまちづくりを福祉の視点で進めてゆくプロジェクトです。

超高齢社会を迎えるにあたり、高齢者の見守り活動の一環としてステッカーを配布し、介護施設をはじめ公共機関や商業施設等への普及活動を行っています。



団体からのメッセージ
見守り活動のオリジナルキャラクターができました。久我の杜地域のシンボルとして広がることを期待しています。



Tunagu spot事業〈ももネット〉

連絡先 ☎075-605-4707 (中西)

桃山地域の病院や薬局、企業や商店、介護・福祉事業所など数十箇所に「Tunagu spot」ステッカーを配布し、配布された店舗を「Tunagu spot」として登録します。

登録店舗は、このステッカーをみて「ちょっと相談したい」と来られた方、困っている方などを適切な福祉機関にお繋ぎするなど「地域と福祉をつなぐ」spotとなつていただきます。

将来、障がいや年齢、居住場所に関係なく、誰もが安心して暮らせる共生社会となる事を目指しています。

団体からのメッセージ
福祉分野以外の方も、Tunagu spotに興味や関心があることがわかりました。今後の連携に活かして行きたいと思います。



留学生と地域住民との文化交流事業〈国際文化交流OOKINI〉

連絡先 ☎075-777-7713
✉ookini@kyotofushimi.com

平成30年7月に約20名の留学生と地域住民で七夕イベントを開催しました。浴衣を着て、七夕の歌を歌い、短冊に願いごとを書くなどの交流を行いました。

織姫と彦星の話を聞いたベトナムからの留学生が、「ベトナムでも同じ話があります。ベトナムでは旧暦でお祝いするので日本と日が違いますが、同じルーツを持つ風習であることに気が付きました。」と話されていました。

平成31年の春には、利き酒と型染め友禅染め体験を通じた交流イベントを行いました。

団体からのメッセージ
留学生たちと話す自分の常識が、世界の常識ではないことに気付かされます。



4 採択団体の取組紹介 ③小規模枠

日本初の電気鉄道(路面電車)の啓蒙 (電気鉄道のルーツ 伏見チンチン電車の会)

連絡先 ☐ fushimi.chinchindensha@gmail.com (竹場)

明治半ば、日本初の電気鉄道(チンチン電車)が伏見を起点に開業したことを紹介し、郷土愛を深めてもらうことを目標にしています。当時の電車の8.4分の1に縮小したチンチン電車の精密模型を修復しました。

11月に「日本初の電気鉄道と京都市電イラスト展」を開催し、精密模型の走行とオリジナルのペーパークラフト教室を実施しました。また、12月には、琵琶湖疏水と明治の伏見をテーマに映画上映会とパネルディスカッションも開催し、多くの方にご参加いただきました。

団体からのメッセージ
走るチンチン電車の精密模型やペーパークラフトづくりは、子どもたちに大人気でした。



向島ニュータウン及び向島地域の商業地活性のマルシェ化事業 (向島賑いづくり事業者組織)

連絡先 ☎075-632-8013 (中嶋)
☐ nakajima@nakajima-nougyou.com

商業の面から地域を活性化させる事を目標とし、地域に根差した事業者が地域住民と共にマルシェ(市場)を開催することで、人のにぎわい創出や新たな若手の異業種ネットワークの構築を促し、向島独自のコンテンツの開発やその情報発信の場を提供することで、地域の活性化につなげていく取組です。

9月と12月に地域住民のイベントと同時開催でマルシェを行いました。

団体からのメッセージ
地域住民と一緒にマルシェを開催することで、新たな地域住民のニーズを知ることができました。



にじいろプロジェクト (にじいろプロジェクト)

連絡先 ☎075-604-6159 (佐藤)

多様性を認め合える地域づくりを目的に、映画鑑賞を通して住民同士が交流する「シネマトーク」を2回開催しました。「見えないから見えたもの」(視覚障がいのある方の半生)、「嗚呼 満蒙開拓団」(中国帰国者の歴史・背景等)を上映。上映後は、お菓子とコーヒーを飲みながら語り合い、相互理解する機会となりました。

また、障がいのある方の個別避難計画を作るワークショップも開催。災害時に配慮を要する方の避難する際の課題等が明確になり、地域の自主防災会等とのつながりの大切さがわかりました。そこで、3月には、自宅から避難所へのルートを検証するワークショップを開催しました。

団体からのメッセージ
それぞれの立場を知ることができ、今後の地域での暮らしにつながる良い機会となりました。



空き家、空き店舗、シャッター店舗等の予防のための事前相談および類似事例調査事業 (おじいちゃん・おばあちゃん・あきんどよろず相談所)

連絡先 ☎075-611-0118 (納屋町商店街事務局)
☐ yorozusodan@kyoto-nayamachi.com

空き家、空き店舗、シャッター店舗等の予防と解決に向けて、主に高齢になった個人商店の店主様への相談事業を実施しました。

健康なうちは事業を続けるが、後継者がいない方、親の介護もあって閉業を考えておられる方、(現在空き店舗だが)いずれ子どもに使わせるため第三者には貸さない方など多様でした。役立つかもしれない情報をチラシにして配布しました。

団体からのメッセージ
高齢化、後継難、親の介護、売上減など小売店の廃業の理由も様々であることがわかりました。



4 採択団体の取組紹介 ③小規模枠

地域に愛される公園づくりプロジェクト 〈南部公園愛護協力会〉

連絡先 ☎ k.haresaku@gmail.com (晴佐久)

南部児童公園がかつてのように地域に愛され住民の交流の場として活用される公園となるよう、ガーデニング講座や定期的な清掃活動を通じてメンバーを集め、公園再整備後も継続してコミュニティ花壇づくりを行う任意組織の設立を目指しています。

平成30年度中に、ガーデニング講座を3回開催し、平成31年度の花壇づくりに向けた作付計画を作る予定です。また、南部児童公園の思い出写真展を開催し、祖父母や親から子どもや孫へと公園の魅力を継承していきます。



団体からのメッセージ
公園は、世代を越えて自然と集まることができる貴重な場所で、清掃活動や園芸作業をすることは、土に触れて適度な運動にもなり、健康づくりにも役立ちます。毎月第2土曜日、第4日曜日の9時から公園清掃をしていますので、ぜひ一緒に活動しませんか。



伏見のワラジ造りプロジェクト 〈御香宮神社武者組〉

連絡先 ☎ 090-3859-2229 (中山)
✉ kyotocityhistory@gmail.com

ワラジは、旅行の無事を祈って神社に奉納される風習が残っているだけで、1950年代以降ほとんど作られなくなりました。

私たちは、ワラジ制作技術の保存継承を目的に、制作体験会を開催するとともに、ワラジをより身近に感じてもらう活動として、ワラジと係わりが深いしめ縄制作会と甲冑試着体験会を開催しました。

- 5月20日：江戸時代の甲冑の虫干し・試着体験会
- 6月24日：ワラジの制作体験会
- 9月2日：江戸時代の甲冑の試着体験会

団体からのメッセージ
戦国武者も江戸時代の町人もワラジを履いて生活していました。甲冑やしめ縄と関連させて、一人でも多くの人にワラジに関心を持ってもらおうと活動を頑張っています。



向島駅前の環境整備と活性化—共生社会の再生— 〈NPO法人向島駅前まちづくり協議会〉

連絡先 ☎ 075-621-0952
✉ yyouchi@palette.plala.or.jp (山崎)

向島駅前の清掃と花の植栽は、高齢者の社会参加と社会貢献の場となっています。ローソン近鉄向島駅前店の駐車場で毎月第3日曜日に開催する「青空朝市」は、開催2年目を迎え、地域に定着しつつあります。

高齢者の居場所づくり、障がい者と住民の交流の場づくりのため、平成30年5月から、3ヶ月ごとに開催している「駅前わいわい元気バザール」には、住民の手作り雑貨や地域包括センターの介護相談など20店以上の参加があり、誰もが住みよい地域づくりに貢献しています。



「向島駅前わいわい元気バザール」の様子

団体からのメッセージ
地域子ども、高齢者、若者などいろんな方が集まり楽しく過ごしました。

人の和で繋ぐコミュニティの街(学区) 〈砂川学区人に優しく美しい街作り協議会〉

連絡先 ☎ 075-643-5612 (土田)

近年、留学生の急増に伴い、文化の違いによるゴミの不法投棄や交通マナーなどが問題となっていたので、京都の文化や生活習慣を学んでもらうことを目的に、学区民と老人、留学生とが交流する機会を設けました。

6月のホテル祭りや11月の学区防災訓練、2月の餅つき大会などに参加を呼びかけたところ、多くの留学生に参加してもらい、地域の方との交流を通じて、少しずつ生活習慣などを学んでもらいました。

団体からのメッセージ
今後もより多くの留学生に生活習慣などを学んでもらう、安心安全で美しいまちづくりを目指していきます。



4 採択団体の取組紹介 ③小規模枠

砂川小学校児童安心安全見守り事業 〈砂川安心安全見守り隊〉

連絡先 ☎090-2012-8463 (小野)

砂川小学校の生徒が安心して通学できるように、横断旗等を使って通学路の危険な場所で見守り活動をしています。

今まで行っていた学区交通推進員だけでは人員が足りないため回覧で募集しましたが、応募はありませんでした。そこで新たに「砂川安心安全見守り隊」を作り、子どもたちの安全は学区民で守るという強い信念のもと、回覧ではなく学区全世帯にチラシを直接配布したところ、18人もの新たな見守り活動の仲間ができました。

団体からのメッセージ

隊員が病気等でいつもの所に2、3日いないと、子どもや保護者から心配して連絡がくることもあり、見守り隊が地域の方から大切にされていることを実感できました。まだまだ隊員が足りないので、これからもチラシの配布など、積極的に声掛けをしていきます。



ひろげよう!「高松橋ひろば」から地域の和 〈鴨川運河会議〉

連絡先 ✉kamoun.ukai@gmail.com (鶴飼)

京阪烏羽街道駅南側にある「高松橋ひろば」を拠点にして、明治期にできた鴨川運河周辺のウォークや拓本体験、音楽イベントやミニマルシェ(市場)を7月と11月に2回開催しました。砂川・稻荷学区や東山区月ノ輪学区の地域の皆様、伏見工業高校生などの協力もあり、「高松橋ひろば」には老若男女総勢600名を超える方に来ていただき、楽しく賑やかな時間を過ごしてもらうことができました。参加者からは、定期的開催してほしいとの要望もいただきました。

団体からのメッセージ

「高松橋ひろば」が地域のみなさんの賑わいの場として、認識されつつあると感じられました。さらに大きく広がる可能性もあり、今後も続けていこうと思っていました。



藤森神社ラジオ体操の会 〈藤森神社ラジオ体操の会〉

連絡先 ☎090-2350-8267 (澤田)

毎朝、藤森神社でラジオ体操をしています。藤森神社についての講演会を開催したことで、より神社のことが分かり、毎朝ラジオ体操に来る楽しみが増えた気がします。

補助金で購入した3台のロコモステップをラジオ体操する場所に設置すると、体操が始まる前に人が集まってきて、各自が交代でロコモステップをするようになりました。そのお陰で80代、90代の人でも元気よくステップできるようになりました。今後ぜひ積極的に進めていきたいと思っています。

団体からのメッセージ

全員がラジオ体操第3をできませんが、徐々に参加する人が増えてきました。また、今後もっと藤森神社の神様や石碑などについて講演を開いてもらい、より楽しみながらラジオ体操をして、皆様の健康維持につなげていきたいです。



我が事として分かちあう砂川のまちづくり ―誘い出しボランティアの養成試行事業 〈伏見区砂川学区自治連合会〉

連絡先 ☎075-643-5612 (土田)

引きこもりがちな住民や留学生、障がいのある住民などを対象に、地域との交流のきっかけを作り、「いのちを大切にする砂川」に加えて「多様性を活かすあう砂川」のまちづくりを推進します。

多くの方に参加してもらい、今後の活動の土台を築くことができました。

- 6月:住民とのトークセッションを開催
- 10月:多世代交流会を開催
- 12月:交流の場への誘い出しボランティア養成講座を開催

団体からのメッセージ

今後もより多くの住民との交流を通じて、地域の活動に積極的に参加してもらえるボランティアを養成していきます。



4 採択団体の取組紹介 ③小規模枠

大人と子どもの秘密基地「FUKAKUSA BASE」をつくろう〈父活プロジェクト〉

連絡先 ☐ info.chichikatu@gmail.com

伏見区深草地域の大岩山の深草トレイル(大岩神社参道)沿いの広場を中心に、毎月第2日曜日(or土曜日)に実施している定例の里山整備活動、鎮守の森のたんけん隊と、大人と子どもが大岩山の資源を活かしたちいさなシゴトに取り組んでいます。

平成30年は、台風21号による倒竹木による影響で、深草トレイルが通行止めになるという予想外の出来事がありました。様々な関係者との協働で再整備し、より魅力的な場所になりました。



団体からのメッセージ

生き物調査では、89種類の生き物を大岩山で見つけることができました。

深草の竹を活用した高齢者の居場所づくりと多世代交流〈深草竹コプターの会〉

連絡先 ☎090-3359-9800
☐ f.takecopter@gmail.com(三林)

平成29年度に取り組んだ放置竹林の竹を活用した「竹とんぼ」から発信した竹林の再生と交流をさらに深めるため、商店街から離れた地区に住む方の買物支援となる「深草おでかけベンチ」作りをきっかけとして、子どもたちと高齢者をつなぎ、コミュニケーションと地域の活性化を目指します。

○廃材を使ったベンチ(パイプフレーム)(6月)・・・1台作成

○深草小学校で竹ベンチ教室(9月)・・・2台作成

※コミュニティプラザ深草図書館前と「和・いけやん」前に設置済



団体からのメッセージ

ネーミングライツ募集!

高齢者や足腰の不自由な方達が気軽に休める町のベンチの名前を、あなたの団体や会社が命名できます!ベンチで地域貢献しませんか?

第2回大岩七瀬川サロン〈大岩七瀬川サロン実行委員会〉

連絡先 ☐ wakamatsu@kyoto.zaq.ne.jp(若松)

JR奈良線の東部地域では高齢者福祉を目的に、藤紫会(鞍ヶ谷)、むつみ会(瓦町)、いちよの会(谷口町、東伊達町(新、北部、東部))、うずらシニア会(うずらヶ丘)の4サロンにより、昨年へ続き、合同の交流会「第2回大岩七瀬川サロン」を実施しました。地域の医師による「在宅医療」の具体的なお話と、京都教育大学の学生によるクラシック音楽演奏を行いました。2回目ということで周知も広がって参加者が増えました。



団体からのメッセージ

特に「在宅医療」のお話は身近な問題ということで関心が高く、参加してよかったという感想を多くいただきました。最後はみんなで一緒に歌って楽しく会を終ることができました。

町家 de “交龍”サロン〈特定非営利活動法人 深草・龍谷町家コミュニティ〉

連絡先 ☎075-644-7760(長谷川)

龍谷大学の深草町家キャンパスを会場として高齢者と学生が集い、語り合う場である「交流サロン」を年4回開催しました。交流サロンでは世代を超えた人々が語り合い、交流することで、お互いが持っている考え、知恵、能力などを理解し合い、共有することで双方がより良い関係を築く事を目的としています。

10月の「町家 de “交龍”サロン」では高齢者と学生と一緒に月見団子を作り、食しながら風習や深草地域に関する古い話を聞くなど楽しく語り合いながら世代間交流を深めました。



団体からのメッセージ

参加者からは、「普段から学生と話す機会がないため、若い人の考えや想いなども聞くことができ、楽しく時間を過ごせました。」との意見をいただきました。

4 採択団体の取組紹介 ③小規模枠

大岩街道周辺地域の環境保全活動およびコミュニティ再生 (龍谷大学政策学部井上ゼミ)

連絡先 ☎075-645-8412(井上)

大岩街道周辺地域では、不法投棄による環境破壊や、地域コミュニティの希薄化が課題となっています。平成29年度に整備した鎮守池や監視小屋跡地を活用するために畑を整備し、収穫した野菜等を用いた交流イベントや清掃活動を実施しました。

また、監視小屋跡地への掲示板の設置や定期的なチラシの配布により、活動の様子を広く周知し、地域との交流を深めています。それらの交流を通じて、地域住民によるまちの将来ビジョンづくりの機運醸成につなげていきます。

団体からのメッセージ

住民の方々が交流できるようなイベントを開催したり、様々な形で直接お話しをする機会を設けることで、まちの将来ビジョンの策定に向けて、一歩前進することができました。



文化を基軸とした地域コミュニティ事業(自町連交流将棋大会) (春日野自治町内会連合会)

連絡先 ☎075-575-2255(森)

文化を基軸とした地域コミュニティ事業として将棋大会を開催し、地域住民が集い、将棋のもつ文化を学び実践(対局)を通じて、コミュニティの活性化を図りました。

- (1) 講師による講演:将棋の歴史、京都の文化との関わりについて
- (2) 実践歴(実力)別に班分けし、対局(初心者は講師による駒の進め方)
- (3) 講師のマグネット盤による対局後の局面解説など



団体からのメッセージ

有段者と対局できてよかったです。また、日ごろ会話のないご近所の方とも将棋を通じて交流ができました。

歴史が紡ぐ醍醐の地域コミュニティ (醍醐十校区自治町内会連絡協議会)

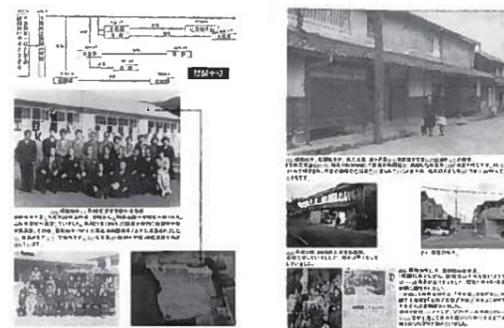
連絡先 ☎075-573-1919(西)

醍醐地域の小学生や中学生など将来を担う子どもたちや地域住民が、自分の住んでいる地域に愛着を感じ、郷土愛を育むことを目的に、醍醐地域の古写真集を発行しました。

今後は、豊かな自然や歴史・伝統、生活文化が息づく醍醐の魅力をより多くの人に発信できるように取り組みたいと考えています。

団体からのメッセージ

自分が暮らしている地域に愛着を感じていただくことで、地域活動への参加意欲を向上させ、地域コミュニティの活性化を図ることができました。



「終活」人生の終末期にむけての備え (醍醐女性会)

連絡先 ☎075-571-3483(水口)

醍醐女性会は、発足から70年近くが経過し、会員の高齢化が進んでいます。

そのため、残りの人生をより良く生きるための準備「終活」について勉強会や発表会を通じて学習しました。

近年、「終活」の必要性に目を向けることも多くなっています。私たちは、会員の意識調査(終活アンケート)を通して、優先順位や実践活動を各々が考える取組を始めています。

その内容を学区内の高齢者の皆さんにもお伝えすることで、孤立することのないよう家族や地域とのつながりを深めています。

団体からのメッセージ

11月23日に京都市醍醐交流会館で開催したシンポジウムでは、200名の来場者があり、7人のパネリストに発表していただきました。



【本事例集に関する問合せ先】

伏見区役所地域力推進室企画担当 (電話611-1295)

【伏見区区民活動支援事業に関する問合せ先】

伏見区役所地域力推進室まちづくり推進担当 (電話611-1144)

深草支所地域力推進室まちづくり推進担当 (電話642-3203)

醍醐支所地域力推進室まちづくり推進担当 (電話571-6135)



この印刷物が不要になれば
「雑がみ」として古紙回収等へ！

